

大濠人

平成10年5月10日発行第32号(通算36号)

'98-32

福岡大学附属大濠高等学校同窓会会報

<発行所>
福岡大学附属 大濠高等学校同窓会
〒810-0044 福岡市中央区六本松1丁目12号1号
TEL. 092-771-0731 (代表) 直通714-1681
発行人 原 維宏
編集人 平島文憲
<印刷> 福岡総合印刷株式会社



学園創立50周年

大濠中学・高等学校創立五十周年記念
文化部(美術・書道・写真OB現役)
合同展開催

会期 平成10年9月1日(火)～6日(日)
会場 NHKギャラリー(中央区六本松)
この度、本校の創立五十周年を記念して、3部による合同展を開催することになりました。文化部でも、創立以来、今まで旺盛な創作活動を続けて参りました。今回は、主にOBの作品が中心になるかも知れませんが、本校の歴史と同様に築かれた文化部の展覧会を、是非ご覧いただきませう。ご案内申し上げます。

各文化部卒業生の方で、氏名住所等の原簿不明のため、「出品依頼要項」を郵送できない方が多数おられます。もし、出品参加を希望される方を「ご存じでしたら、左記へ問合せ下さるようお願い申し上げます。

多くの参加を楽しみにお待ちしております。問合せ先
〒810-0044
大濠高校内(中央区六本松一十二丁)
電話 092177110731

申込締切 5月30日
作品種別、規格、および搬出入その他、詳細はお尋ね下さい。
寄付のお願い
金額の一口壹万円は一応の目安であり上下は自由です。

二、郵便局振込の場合は、同封の振替用紙をご利用下さい。
01750・7・31238
福岡大学附属大濠高校同窓会
払込手数料は、加入者負担です。

三、銀行口座払込みの場合は、次の指定銀行をご利用下さい。
西日本銀行六本松支店
普通預金650088
福岡大学附属大濠高校同窓会

会長 原 維宏
払込み手数料は、大変恐縮ですが、払込者負担をお願いいたします。

送金の際は文書扱いをお願いいたします。
なお各方面から重複してお願いすることもあります。ご了承下さい。
連絡先(同窓会室)
電話0921771411681
FAXも同じです。

50周年寄付リス

1回生
廣畑 烟 富 種 志 之 満 雄
土崎 靖 宏 志 之 満 雄
江崎 井 上 靖 宏 志 之 満 雄
松崎 井 上 靖 宏 志 之 満 雄
飯沼 井 上 靖 宏 志 之 満 雄
大塚 井 上 靖 宏 志 之 満 雄
保坂 井 上 靖 宏 志 之 満 雄
隅横 井 上 靖 宏 志 之 満 雄

2回生
村上 正 彦 人
井村 上 武 正
藤 野 昭 武
藤 野 昭 武
山 崎 純 勝 昭 武
浅 野 純 勝 昭 武
安 野 純 勝 昭 武
原 野 純 勝 昭 武
田 原 野 純 勝 昭 武

3回生
藤 西 見 川 崎
富 塚 下 崎 見 川 崎
篠 山 田 崎 下 崎 見 川 崎
島 山 田 崎 下 崎 見 川 崎
松 山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
内 山 田 崎 下 崎 見 川 崎
前 山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

4回生
猪 寺 山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

5回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

6回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

7回生
武 堀 川 崎 下 崎 見 川 崎
藤 西 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

8回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

9回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

10回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

11回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

12回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

13回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

14回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

15回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

16回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

17回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

18回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

19回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

20回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

21回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

22回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

23回生
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎
山 田 崎 下 崎 見 川 崎

半世紀をステップに更なる飛躍を

わが母校は、昭和23年(1948)に設立された福岡外事専門学校附属中学校(現福岡大学)が前身であり、平成10年(1998)に創立50周年を迎えました。誠に同慶の至りであります。

太平洋戦争後、間もない時代の混乱と貧しい中で開校とあって、校舎もなく、元・神社庁の建て物を借りての授業開始でした。このような「寺子屋スクール」でのスタートも3年後には大濠高等学校が産声をあげ、時代の急速な変遷の中にたくましく半世紀の年輪を重ねてきました。初代の井口末吉校長(故人)が健学精神に掲げた「質実剛健」「文武両道」そして道徳教育は、学ぶものをして自主・自立の精神を継承、草創期の苦難を乗り越えて、大濠の伝統と風格を築きました。いまや、名実ともに「私立高校の雄」であり、私達同窓生の誇りであります。

50年の歴史を礎(いしずえ)に、新たな飛躍の第一歩を踏み出す後輩たちをただ傍観するだけでは、厳しい時代から遅れをとってしまいます。幸いにして同窓会は県内はもとより、関東・関西支部も活発に活動しています。今後さらなる団結で福岡大附属大濠高等学校に潜む無限の力を最大限に発揮できるよう努力する所存です。皆さまのご協力をお願いします。

最後に、50周年を一つの節目として、母校の益々の発展を心から祈念いたします。



大濠高等学校同窓会会長

原 維宏

編集後記
今年、学園創立50周年ということで、各方面で活躍している大濠卒業生の特集を組みました。学校とも同窓会の発展を祈念してやみません。

「師弟」の絆 から100周年をめぐって

我が大濠学園は、本年めでたく創立50周年を迎えます。全日制中学校・高等学校、定時制高等学校の卒業生の皆様にお祝いとお礼を申しあげます。

学園は、師弟一如の独自の校風に育まれ、今日、九州を代表する私学の名門として、全国へ優秀な人材を輩出し続けております。質実剛健、明朗闊達の人間教育を根幹に据えた文武両面における躍進が、この50年の歴史だとも言えましょう。

敗戦後の世相は、子供たちにとって荒んだ環境でした。公立学校の整備は遅々として進まない。その中で、校地・校舎もない大濠中学校が敢然として少年教育の道場を開いたのです。食糧補給のための農作業と授業が渾然一体。言わば私塾のような心の通い合う薫陶が学園の出発点でした。

30年代にはいると、教育界も安定し公立学校も整備が進みました。そのような状況の中で、当初の目的を達した定時制及び中学校は生徒募集を停止し、全日制高等学校のみを残すことになりました。

また、昭和44年には、社会の大学進学率の増加に伴い、商業科を廃止することにもなりました。平成8年には、中・高一貫コース制の福岡大学附属大濠中学校が開設されました。セピア色で4階建ての瀟洒な建物は、エキソチックな趣を漂わせ、道行く人の目を楽

ませていきます。

すゝつひに海となるべき山川も、しばし木の葉の下くぐるなり。初代校長、故井口先生は創立30周年記念式典の祝辞で、右記の歌を引用され、現校舎建設に至るまでの紆余曲折の道程を述懐されていますが、次は百周年をめざして、ひたむきな努力を続けなくてはなりません。少子化に伴う、私学の冬の時代は、6年後、11年後には確実にやってきます。伝統の上に胡座をかいている時ではありません。常に危機感をもって臨み一人ひとりの生徒に目を向けて、徹底した指導を根気強く続けていくことが肝要です。生徒と共に在り、彼らと一緒に汗を流す姿勢こそ、今の学校教育に不可欠のものだと思います。

廣瀬淡窓は私塾、咸宜園で、「師弟一如」の精神を具現した人でした。曰く、休ふことをやめよ、他郷苦辛多しと、同胞朋友あり、自ら相親しむ柴扉曉に出づれば、霜天に満つ、君は川流を汲め、吾は薪を拾はん。50周年を機に見直したいものです。



校長 近藤 達男

50年のあゆみ

昭和23年3月	福岡外事専門学校附属中学校として大濠中学校設立、井口末吉先生が初代校長に就任。	昭和41年9月	2,950坪を新築移転。新校舎並びに体育館新築落成式を挙げる。旧校舎より移転。
昭和24年3月	福岡外事専門学校が福岡経済専門学校と合併、福岡商科大学と改称するに伴い、福岡商科大学附属大濠中学校と改称。	昭和46年3月	第18回卒業式を挙げる。これを以て商業科を閉ず。(卒業生総数3,217名)
昭和26年4月	福岡商科大学附属高等学校として大濠高等学校設立の認可を受け開校。	昭和56年3月	東館(図書館、視聴覚教室、特別教室、普通教室)を竣工。
昭和31年3月	福岡商科大学が福岡大学に改称するに伴い、福岡大学附属大濠高等学校及び同附属大濠中学校と改称。	同 6月	第一体育館(渡廊下を含む)を竣工。
昭和33年3月	大濠中学校第8回卒業式を挙げる。これを以て大濠中学校を閉ず。(卒業生総数1,080名)	昭和59年8月	大濠高等学校生徒寮「舞鶴寮」を竣工。
昭和37年3月	大濠高校定時制が8回卒業式を挙げる。これを以て定時制を閉ず。(卒業生総数322名)	昭和62年4月	大濠高等学校生徒寮「草香江寮」を竣工。
昭和40年9月	旧校舎南隣接六本松1丁目12番地1号に鉄筋4階建校舎	平成7年2月	部室棟(鉄筋造陸屋根3階建)を竣工。
昭和43年	柔道 金鷲旗 優勝	平成8年1月	中学校校舎(鉄筋コンクリート造5階建)を竣工。
昭和44年	駅伝 全国大会 優勝	同 2月	福岡大学大濠中学校設立の認可を受ける。
昭和45年	柔道 国体個人 優勝	同 4月	福岡大学附属大濠中学校開校及び入学式挙げる。
昭和48年	剣道 玉竜旗 優勝		
昭和49年	バスケット 総体 優勝 駅伝 総体千五百 優勝		
昭和50年	水泳 総体百自由 優勝 水泳 総体二百自由 優勝		
昭和60年	バスケット 選抜 優勝		
昭和61年	バスケット 総体 優勝		
平成元年	剣道 玉竜旗 優勝		
平成5年	バスケット 選抜 優勝 剣道 総体 優勝 剣道 玉竜旗 優勝		
平成7年	剣道 総体 優勝		
平成9年	剣道 選抜 優勝		

運動部栄えある偉業

昭和37年	駅伝 全国大会 優勝
昭和40年	駅伝 全国大会 優勝
昭和43年	柔道 金鷲旗 優勝
昭和44年	駅伝 全国大会 優勝
昭和45年	柔道 国体個人 優勝
昭和48年	剣道 玉竜旗 優勝
昭和49年	バスケット 総体 優勝 駅伝 総体千五百 優勝
昭和50年	水泳 総体百自由 優勝 水泳 総体二百自由 優勝
昭和60年	バスケット 選抜 優勝
昭和61年	バスケット 総体 優勝
平成元年	剣道 玉竜旗 優勝
平成5年	バスケット 選抜 優勝 剣道 総体 優勝 剣道 玉竜旗 優勝
平成7年	剣道 総体 優勝
平成9年	剣道 選抜 優勝

50周年の春まです剣道全国制覇

3月27・28日に愛知県春日井市で第7回全国高校剣道選抜大会が開催された。本校は第1回に出場し準優勝を収めていたが、第2回、第6回までは出場を逃がしており6年ぶりの出場であった。各都道府県1校ずつに加え、開催県である愛知県から2校の計4チームで争われた。初日の予選は、広島県の広島皆実高校、富山県の高朋高校、そして本校の3校リーグで行われた。予選1回戦の広島皆実戦は2-0、2回戦の高朋戦では3-0で勝利を収め、翌日の決勝トーナメント出場を決めた。2日目の決勝トーナメント1回戦は東京都の国士館高校との対戦となった。その国士館戦では先鋒から副将までの四人全員が引き分けてくるという苦しい展開であったが、大将の江崎が勝利を収め試合を決めた。ベスト4をかけて戦ったのは、素早い動きが特徴である千葉県の習志野高校であったが、相手の動きに振り回される事なく落ち着いて戦う事ができ、3-1で準決勝へ駒を進めた。準決勝の相手となった熊本県の九州学院高校は先日行われた九州選抜剣道大会で優勝しており、同大会の個人戦で優勝した内村選手を大将に置く強敵。その九州学院に対し、大将の江崎と副将の高原を入

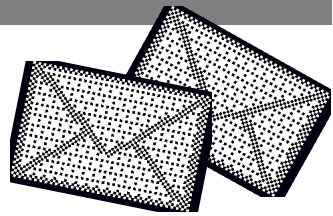


(剣道部3年 金井梓)

れ替えるという思い切った作戦に出た結果、大将まで2-1-2の引き分けで激戦の末大将戦を制し、決勝戦進出を果たした。決勝の相手は神奈川県桐蔭学園高校。張りつめた空気の中試合が行われた。先鋒戦、古道が引きゴテで一本勝ちの後は両チーム一歩も引かずにそのまま引き分けが続ぎ、大将江崎が引き分けた瞬間、本校の優勝が決定した。

支部だより

各支部からの報告

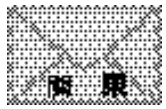


支部 部会 部部

支支 友支 学支

東海 西医 紫支

関東 鶴関 福筑

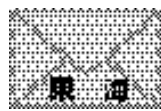


関東支部

平成9年10月18日の第15回総会を皆様方のご協力のもとに無事終えましたことを厚くお礼申し上げます。当支部の近況としましては定例の役員会を毎月行っておりまして、昨年の総会の反省と15回総会に向けての準備等、また新年を迎えて1月27日新年会を行いました。講師を招いて経済情勢、ビックバン情勢、証券会社における最近の動向について等、勉強会を兼ねての新年会でした。今後は16回総会に向けての定例役員



会を進めていく予定です。特に最近の支部名簿作成が至急の課題になっており、全力を上げて名簿作成に取り組んでいくところです。他には、親睦を兼ねた一泊旅行も是非やりたいと計画しているところです。



東海支部

支部の近況

東海支部は平成7年に発足し、第3回総会を昨年11月27日名古屋観光ホテルにて開催致しました。

本部より郡田副会長、関東支部より篠崎前支部長、関西支部より後藤副支部長が来賓として出席。当支部会員も17名が出席。

隅田支部長(1回生)は「母校は平成10年4月に目出度く50周年を迎えるが、当支部も会員一丸となり、さらなる発展をしていこう」と挨拶。田中幹事長(7回生)の現況報告と今後の運営について試案が出されると満場一致で採決され、あつという間に総会は閉会した。

引き続き、藤崎副支部長(3回生)の乾杯音頭で懇親会が始まると博多弁が飛び交い出して名古屋人から博多もんに変身。今回もゲストにコロナビア歌手城ゆきさん他2名の友情出演もあり、喉に自慢の人はデュエットありで和気あいあいの楽しい3時間でした。



2次会は毎月第3木曜日に夜の会を開催している、スタンド「ブチ」へ全員移動、立席が出る程の盛況で夜遅くまで学生気分を満喫した一日でした。今年3月27日・28日全国高等学校剣道大会が春日井市体育館で行われ、会員の多くが応援にかけつけ、見事、全国優勝しました。この様な大会を機に東海地区に在住の大濠OBが支部に入会される事を願っております。東海支部は毎月第3木曜19時よりスタンド「ブチ」(名古屋市中区栄4丁目九番りオプラザビル2階)にて気軽に集まれる会を真由美ママの好意で飲み放題四〇〇〇円で行っております。東海地区の方、出張で来られた方も一度顔を出して下さい。誰か必ずお待ちしております。写真は第3回総会の記念写真です。前列の4名は歌手の皆様。後列右側の紅一点がブチのママです。

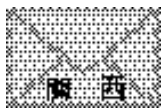


鶴友会

鶴友会(福岡市役所支部)の平成9年度の総会は平成9年11月27日、中央区天神、平和楼本店において多数の出席のもと盛大に開催されました。総会第一部において五郎丸満氏の退任にともない、新会長に本村泰之氏(8回卒)を、副会長に林正治氏(11回卒)、常任幹事に今任収治氏(12回卒)、入江康一氏(32回卒)を新たに加えて、役員若返りが実現するなど決意も新たに鶴友会はスタートしました。

また決算、予算等の議案は全員一致で可決され無事終了しました。つづいて総会第2部懇親会では、来賓として福岡市からは桑原市長代理として井上総務企画局長、学校より徳王教頭先生、同窓会本部より原会長、福岡市議会より大神、中原、鬼塚、川口の各議員の出席いただき、それぞれ挨拶がありました。

井上総務企画局長からは福岡市に多数の大濠高校出身者が勤務されており本心に強く感じている。また福岡市は九州の中枢都市からアジアの拠点都市を目指していくと挨拶。学校からは徳王教頭先生より学校創立50周年記念事業についての説明及び協力要請がありました。つづいて懇親会に移りましたが今回は、若い人の出席が多く、話も元気一杯のなかで、それぞれの仲間が酒を交え、なつかしい話の花を咲かせ交流を深めました。最後は来賓の方々も一緒になって、全員で校歌を元気よく合唱し母校及び同窓会の益々の発展を祈念し万才三唱のうち閉会いたしました。鶴友会は同窓会地元支部の自覚を持って今後とも活動を続けていきたいと思っております。



関西支部

関西支部も早17年目を迎え会員数も5〇〇名を越える大世帯となりました。恒例の総会は7月19日に大阪弥生会館で母校より広瀬中学校教頭先生、本部より原会長を始め4名、関東支部より斉藤支部長、東海支部より隅田支部長、有信会より田中支部長のご臨席のもと開催されました。

支部総会に続き懇親会に移り広瀬教頭先生を始め来賓の方々の挨拶の後、郡田副会長の乾杯の音頭で祝宴となり、大いに盛り上がった所で抽選会となり、結城幹事の指揮のもと、肩を組んで校歌を斉唱、本村副会長の万才三唱で幕となりました。

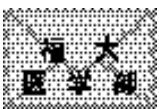
11月23日には箕面公園にて家族同伴の紅葉狩りを行い、福岡より猪山元副支部長(3回卒)を迎え、おでんを囲んで行く秋を楽しみました。12月6日



の忘年会ではカニスキ宴会を開催、母校運動部の活躍を期待する声が多々上がりました。2月6日には、しゃぶしゃぶを囲み新年を祝いましたが、嬉しいことに新人の木下(33回卒)井原(36回卒)両君が参加、50周年を迎える母校の発展を祝いました。関西支部では2カ月に一度の行事を軸に活動を進めておりますが、参加者が少なかつたり、高齢者ばかりの参加や、参加者の特定化の傾向などの、悩みはありますが「継続は力なり」をモットーに、「そこに行けば



博多がある」をテーマとしてこれからも頑張っていきたいと思っております。



福大医学部

「遂に大学卒業総代者出る」今年春先から、我々、福大医学部大濠会には朗報が入ってきました。21回卒業生トップとして、川浪大治君(39回卒)がその代表に選ばれました。これは、今後の大学の中の卒業生にも大変よい影響を与えるでしょうし、この様な川浪君達若い人間が、大学の教育スタッフになって残って行く事が将来の福大医学部が独立した私学になって行く為の第一に超えねばならぬハードルと思います。

謝恩会の時、川浪君が小生の所にきて「先生やりましたよ」と握手をした時にはグッと感じる思いがありました。思わず「よくやってくれてありがとう」と声がでました。大濠生は大学の中で確実に伸びて行っていると感じました。今年は大濠推薦者が2人辞退したとの話で少々残念に思っていました。川浪君の話で不満も消えてしまいました。小生も60才までの限られた時間に何が出来るのか見極めたいと思います。大濠卒業生として誇れる出来事が今後も代々続いてもらいたいものです。小生も微力ながら応援したいと思っています。母校から今後このような優秀な人材をどんどん福大に送ってほしいと思います。



筑紫支部

母校卒業生はみな人物も良く、将来も楽しみな人達で安心しています。以上福大医学部支部の報告をさせていただきます。

- 筑紫支部の平成9年度活動報告を致します。
- 4月10日 役員会
 - 6月14日 懇親会
 - 8月9日 懇親会
 - 10月13日 役員会
 - 11月5日 役員会
 - 11月26日 役員会
 - 支部総会について
 - 12月16日 忘年会
 - 1月29日 新年会
 - 支部総会準備を兼ねて
 - 2月10日 役員会
 - 支部総会準備
 - 2月17日 役員会
 - 支部総会最終打ち合わせ
 - 2月20日 支部総会
 - 18時30分より太宰府Jボールにて交流ボーリング大会
 - 19時30分よりちゃんこ和にて総会及び懇親会
 - 3月6日 新役員会
- 以上が平成9年度の活動内容です。

同窓会年会費

同窓会の大いなる発展のために、よろしくご協力ください。

年会費 ¥1,000円

《納入方法》振替用紙(指定)を用いて最寄りの郵便局でお払込み下さい。

副会長 郡田紀久雄 (財政委員長)

支部総会は、ボーリングで心地よい汗を流した後、先生方2名と本部から3名の参加もあり、楽しいひとときを過ごしました。この総会で、支部長を6年間務められた中島弘道先輩が退任され、新支部長に稗田邦雄先輩が就任されました。新支部長のもとに異業種交流を兼ねた楽しい活動をと皆張り切っています。仲間に加わりたい方は、事務局（13回生松本健吾092-928-1202）までお気軽にお電話下さい。大濠人の輪が広がっていくことを願っています。



なお、新役員は次の通りです。

- | | |
|------|---------|
| 支部長 | 稗田邦雄 8 |
| 副支部長 | 木村 孝 16 |
| 事務局長 | 松本健吾 13 |
| 会計 | 井上征治 20 |
| 監事 | 前田通憲 4 |
| 理事 | 中野康則 13 |
| | 稗田徳夫 13 |
| | 住吉隆行 21 |
| | 島 史憲 26 |
| 相談役 | 中島弘道 4 |
| | 忍田雄三 9 |
| 顧問 | 武藤勝成 1 |
| | 松尾直季 1 |
| | 佐伯茂洋 1 |
| | 児島 正 1 |
| | 青柳正道 17 |
| | 鈴木洋一 21 |
| | 福山恒星 33 |

平成10年の正月、この国「日本丸」はどこに行くのだろう。と憂いながら「大濠人」の原稿を書いているのですが、平成9年という年は、政治的にも経済的にも、否、もつと視点を變えようとアジアの政治・経済にとって試練の年であったと言うのが日本人みんなの共通感覚だと思われまふ。が、我が三八会の仲間のとつてそれ以上の悲しみが襲うとは誰も想像だにしていなかったでしょう。

平成9年6月22日、我々は福新楼において10回卒の「三八会」を開催致しました。

遅れて参加した数名を入れてざっと40名近くの仲間が集まりました。当時担任だった池田保信先生、野田雅夫先生、田原憲光先生が元氣なお顔で参加してくださいました。

また、当時のクラス担任ではありませんでした。が、今も元氣な山形先生、木下先生、それにOB会事務局から吉開氏、平嶋氏にご参加いただき若かりし昔の思い出話に、いつしか時の経つのを忘れて飲み、かつ語り合いました。三八会はいつもの楽しい会なのです。宴もたけなわのころ大野先生、浅田先生が駆けつけて下さいまして校歌やエールに花を添えていただき、万歳三唱の後又会うことを約束して2次会の中洲へ繰り出したことは言う間でもありません。



三八会世話人 高原 康浩

写真が会が始まる前に撮ったのですが、その中の前列左から二人目の井上善達君が昨年暮に亡くなりました。彼は「割烹 幾永」のご主人でした。天神にお店があったころから三八会はお世話になりました。又彼も三八会の仕事をよくやってくれました。三八会がここまでやってこれたのも彼のお陰だと思っています。本当に惜しまれてなりません。彼の冥福を祈りながら三八会の益々の発展と皆様方の益々のご隆盛を祈念しつつ原稿を書いた今年の正月です。

平成10年正月

卒業生紹介

現代の名工」に選ばれる

濱野 徹太郎氏(定時制4回卒)

平成9年11月19日、労働省は長年その道一筋に努力を重ね卓越した技を誇る技能者に贈る「現代の名工」を発表した。県内からは、5人が選出されたが、その中の1人が、母校定時制4回卒業の濱野徹太郎氏である。

濱野氏の家系は、祖父の代から続く左官一家。伝統的な技能を用いて博多の旧家や茶室、神社仏閣等伝統的家屋を手がけてこられた。茶室の壁の骨組みとなる竹で編んだ「えつり」の技法は、祖父の代から受け継いだもの。中でも茶室の壁塗りなどの特殊仕上げには、卓越した伝統の技が光る。

濱野氏は、平成3年11月に福岡市の技能功労賞を、平成4年11月に福岡県の優秀技能賞等も受賞されている。



「現代の名工」に選ばれる濱野徹太郎氏

居酒屋に集まる山笠のぼせ

博多区下川端町で居酒屋を営む大庭さんは、自他ともに認める「山笠のぼせ」。毎年山笠では、土居流(ながれ)の取締として、若手を引っ張って博多の町を駆け抜ける。

その若手たちは月1回、大庭さんの居酒屋で山笠の勉強を兼ねた懇親会を開く。約30人のメンバーのうち、町で育ったのはわずか5人。

大庭さんの願いは「町外から山笠に参加する人たちの心を、町内」にしたい。その思いを受け止めた若者たちは、会合の前に全員で町内の掃除を買って出た。店のちようちんの灯は山笠の魂でもある。

ヨーロッパの精神を持った指揮者

井崎 正徳

平成7年5月のフタバエスト国際指揮者コンクールで優勝以来、日本有数の指揮者として活躍中。同年11月、レハール作曲「メリー・ウィドウ」を指揮してデビュー、従来の伝統を踏まえた上での新鮮な音楽作りに、聴衆だけでなく演奏者の圧倒的支持を受け大成功を収めた。

現在ではオペラやオレッタ公演にも積極的に取り組む一方、合唱指揮者としても日本フィルハーモニー協会合唱団の常任指揮者を務めるなど活動は幅広い。

大濠魂の染色作家

藤 直晴氏(16回卒)
染色作家

大濠時代は、美術部でビートルズのポスターなどを制作していたと言っ藤さん。「今思えば当時の活動が、今の仕事の原点だった」と振り返る。現在は染色作家として、伝統の手描き友禅の手法を生かし、次々と新しさを取り入れた作品にチャレンジしている。

作品は主にホテルや学校、会館などに飾られ、個人的には作品展を開催したり、美術展の入選を果たすなど活動は多面。人との出会いを大切に、何事にも積極的に向かう姿勢は、質実剛健の大濠魂そのものである。



大学生が初個展開く

坂巻 雄介氏(43回卒)
九産大芸術学部在籍

坂巻さんが写真と出会ったのは、高

校のクラブ活動だった。平成7年、全国の中・高・大学生を対象にした「ヤングカラーフォトコンテスト」(三浦印刷主催)で、銅賞をとるなど力をつけると同時に、写真への道を確立する。その後、九産大芸術学部写真学科に進み、1年の時ドイフォトブラザ天神にて初の個展を開いた。その時のテーマは、日頃何気なく通りすぎる天神や西通りの見慣れた一角をさりげない視点で写した「無意識の散歩」。これから先坂巻さんがどんな視点でカメラを向けるのか、可能性は計り知れない。

福岡でも大暴れ!?

「劇団 新感線」

いのうえ ひでのり氏(25回卒)
「劇団 新感線」主宰

「お客さんが元気になる新しい大衆演劇」を目指し、昭和55年大阪芸大の学生たちで旗揚げした「劇団 新感線」。大阪を拠点とし、東京でも圧倒的な人気を誇る。映画のようなスピード感あふれる立ち回りと、照明や音響効果を駆使したエンターテイメント性の高い演出はライブ感覚で楽しめる。以前の福岡公演では、派手な音楽といかした芝居で博多っ子を魅了した。「福岡の人は構えず素直にみてくれるから新鮮です」。ふるさと福岡でのファンを増やすため公演を定期的に行いたい、と意気込みは熱い。